

市民の森
10年のあゆみ

福岡市



福岡市長 進藤一馬

市民の森は、明治100年事業として、昭和42年に建設事業に着手し、同44年開設されて以来、満10年を迎えることになりました。

市民の森の開設にあたっては、全国にも例のない、市民ならびに、各層各界の民間団体による「市民の森運動本部」が組織され、積極的な推進活動が行われ市民の方々の善意と創意が結集されて整備をみたものであります。

開設当時に植樹された桜など2万本を超える花木類は順調に成育し、緑のレクリエーションの場所として、市民の皆さんに親しまれてまいりました。

近年、都市の急速な開発により自然が失われることが多くなっていますが、一度失われた自然の回復は一朝一夕にしてできるものではありません。祖先から受け継いだ緑を守り、子孫に継承する緑を創り出すことこそ私たちの義務と考えます。

このため、市では総合計画のなかで「生きた緑の都市」を将来像のひとつとして設定し、市民の森整備をはじめとする緑の環境づくりに努めているところでありますが、今後も福岡市をさらに住みよくするため、緑と人間味豊かな都市づくり、を目標として努力する所存であります。

最後に、市民の森建設以来、市民の皆さんから寄せられました献身的なご協力に対しまして厚く感謝いたしますとともに、今後とも尚一層の愛情を市民の森に寄せていただきますようお願い申し上げます次第であります。



市民の森協会会長 蟻川五郎

福岡市油山「市民の森」が建設されてから10年になりました。森を造るのに10年は短い、少なくとも30年がかかろう、と思っていましたが、結果から見ても、10年にはやはり10年の年輪がありました。

樹々の成長もさることながら、最も評価したいことは、「市民の森」に対する市民の親愛感が、10年にして全く定着したと思われることでした。

「市民の森」には、年間40万の市民が訪れるようになりました。一日平均1,100人という、信じられないような大きな数字です。春や秋の行楽日和などには、何千人という人々の来場があることになったわけであります。

10年前、「市民の森」を建設するに当って、当時の阿部市長は、博多湾を眼下にする、美しい緑ゆたかな自然を、市民のレクリエーションや青少年の情操教育の場に利用していただきたい、と申されましたが、この理想は進藤現市長に引き継がれて一段と拡大充実され、今日にまで発展してきたのであります。

「市民の森」について、日常の運営を担当しております福岡市市民の森協会は、建設10年を記念して、目下「世界の樹木園」「つつじ園」を主とする記念事業を計画しております。「市民の森」の一段の整備充実のために、市民各位の御協力を切にお願い申し上げます次第であります。

目 次

市民の森の基本理念……	4
市民の森建設の経緯……	5
油山の自然と歴史……	7
市民の森全景……	9
市民の森の施設……	11
(資 料)	
関係団体名簿……	14
市民の森のあゆみ…	15

市民の森



市民の森の基本理念

市民の森は、福岡市と市民が自然を守り住みよい美しい都市づくりをすすめるため、市民のレクリエーションや青少年の教育の場として自然のままの自然を永く後世に引き継ぎ広く市民の利用に供するため、次のような基本理念をもって設置しています。

① 自然のままの自然

自然のままの自然とは、自然をそのまま放置することなく、人々が親しみをもって自然に接することができ、清潔に整備された自然のことです。市民の森は、その完成された理想の自然を目指しています。

② 人間性の回復

市民の森は、あふれる緑、澄んだ空気、静けさにみちた大自然です。ともすれば、人間性を失いつつある都市から、人間性をとりもどす役割をもつ保健休養林として、より多くの市民を迎え、明日への活動と活力を養い人間性を回復する場所です。

③ 林業の啓蒙普及

森林の公益性は、はかりしれないものがあります。豊かな水源をかん養し、土砂の流出を防ぎ、植物を育てる土をつくり、そして空気をきれいにしています。さらに小動物の世界でもあります。美しい杉や桧の人工林をもつ市民の森は、愛林思想の高揚と自然愛護の精神を育てる場所です。

④ 徒歩利用の原則

近年、自動車などの普及で歩くことが極度に少なくなり、歩く機会の非常に少ない人が目だっています。市民の森では、騒音と煤塵からのがれて、緑に包まれた美しい散策路を歩くことにより、日頃の運動不足を解消し、明日のための健康と体調を整える場所です。



市民の森建設の経緯

市民の森は、明治100年を記念して市民の直接参加のもとに建設されたユニークな自然の森です。

市民の森の建設は、昭和42年の年頭の市長記者会見において、生活環境整備の重点事業のなかで「健康的で緑あふれる自然を満喫できる市民レクリエーションの場としての油山総合開発」という基本構想が発表されたことに始まります。

昭和43年は明治100年を迎える年にあたり、国、県、市町村がそれぞれ明治100年を記念する各種事業を企画しました。福岡市では、昭和42年8月、市、市議会、経済界、労働団体、自治会、学界、文化団体など各界の賛同のもとに、阿部市長を会長とする「福岡明治100年記念委員会」が発足しました。記念委員会では、いろいろな記念事業が検討されましたが、油山総合開発構想にもとづいて、市民の森建設を記念事業とすることが決まりました。この年の11月には、市民の積極的な参加を得るための推進母体として、「市民の森運動本部」(本部長・森 俊雄氏)が設けられました。

運動本部では、昭和42年から3カ年計画で市民の森づくりを進めることを決め、市民の森建設についての市民の幅広い意見をまとめるとともに、これを実現するために自主的な市民参加を呼びかけました。

「僕の木、私の木を植えよう・一木一樹を市民の手で」と植樹や施設などの募金活動をはじめ、シンボルマークの募集、ミス市民の森の選出、市民植樹祭など、多彩な催しで市民の関心を高めました。これら植樹祭には多くの人々が参加し運動を推進しました。

市では、市民の森建設にあたり、関係部局でプロジェクトチームをつくり、基本計画、実施計画の樹立、土地基盤(道路、広場、排水路、園地造成など)の整備事業を主体に推進にあたりました。また具体的な市民の森造成計画については、造園、林業の専門家である九州大学、九州産業大学の助言、指導を受けました。

地元では、当時の福岡市森林組合長が先鞭をきって油山の植林、林道の開設、用地の寄付などに積極的に協力され、日頃から云われていた「長尾山市有林72ヘクタールは市民のいこいの場に開放しては……」との提言が実現したわけです。また同組合長は市民の森内の50年杉、60年杉の植林、保育に尽力されました。

このようにして市民の森建設運動は、個人、法人、奉仕団体、また福岡市出身の在京者など、善意の輪は市外にまで広がりました。総額5,700万円にのぼる寄付によって、キャンプ場、水の森、こだまの森、



市民の森建設の経緯

夫婦石および中央展望台、つり橋、自然教室、草スキー場などの施設が次々と着工され、サクラやレンギョウ、世界の樹木など2万本をこえる花木も植樹されました。

建設途中の昭和43年4月12日には、皇太子ご夫妻が夫婦石展望台にお立ちになり「立派に成長した市民の森を再び訪れてみたい。」という感銘深いお言葉を賜いました。

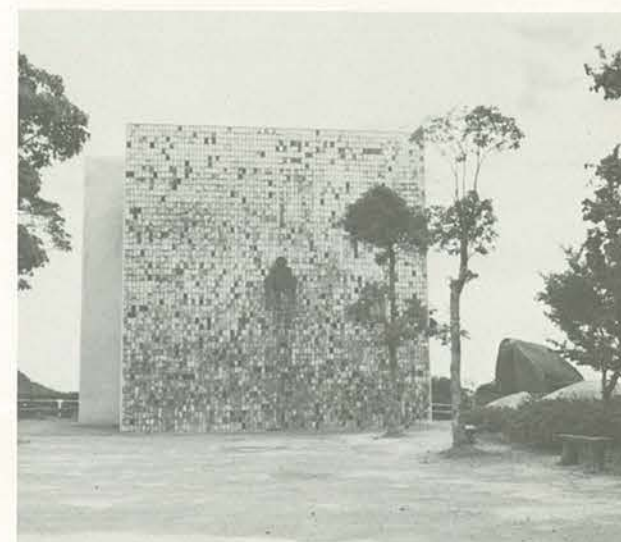
市民の善意と協力により昭和44年12月計画の各施設が完成、市民の森は運動本部から市に寄贈されました。さらに昭和45年から3カ年計画で市民の森の南側に国有林28.8ヘクタールを借り受け、乳牛の子牛を育てる油山牧場が完成しました。

昭和44年12月に市民の森運動本部は事業を終り解散しましたが、かわって翌年10月に市民各界による市民の森協会(初代会長・赤羽善治氏、現会長・蟻川五二郎氏)が設立され、登山者のサービスを開始しました。

市は昭和44年4月に市民の森管理事務所において利用者の安全と、森林の管理につとめています。

その後も市民並びに各団体からの植樹、施設の寄贈などがあって、年を追うごとに内容を充実してまいりました。

このようにして、10年の年月を経過しましたが、はじめ総面積72ヘクタールであった市民の森は、現在113ヘクタールに拡充、建設時に植栽された樹木も順調に成育し、いちだんとすばらしい森に成長しています。今日では年間約40万人の利用者があり、年々急増しています。四季を通じて健全な、自然の緑豊かなレクリエーションの森として市民のみなさんに親しまれています。



●夫婦岩展望台



油山の自然と歴史

1 自然

(一) 地形地質

油山山系は市の西南に位置し、山頂は標高597mあり、地質は花崗岩質で、概して堅固ですが、急峻な地形が多く、林地は崩壊しやすいところもあります。平野部に突出した形の油山からの眺望は、東から南にかけて立花山、三日月山、若杉山、三郡山、宝満山、四王寺山、背振山の山並みが一望され、その遠くには英彦山も眺望できます。また、北部は市街地をとおりて能古島、志賀島をはじめ、玄界島、小呂島、遠く玄界灘をへだてて壱岐の島も晴れた日には遠望できます。

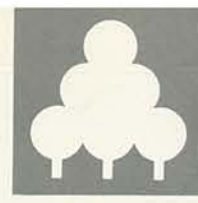
(二) 動物

油山に棲息する野鳥の種類は比較的多く、留鳥としてシジュウガラ、メジロ、コジュケイ、ホオジロ、コガラ、ウグイスなど、漂鳥として、ヒヨドリ、ムクドリ、コムクドリ、ウソ、イカル、カンコウチョウ、ホトトギスなどが見られます。特にコジュケイは、登山道で遊び、車をとめるほど繁殖しています。また、昆虫も豊富で甲虫類では、カブトムシ、ミヤマクワガタ、オオクワガタなどがいます。油山は溪流が多いので、オニヤンマ、ハッチョウトンボ、ミヤマカワトンボ、なども多く、その他、蝶やせみ又、

ほとるもキャンプ場の溪流に数こそ多くはありませんが、棲息しています。小動物では、野うさぎ、カスミサンショウウオが棲み、油山南麓の御笠木から那珂川町にかけては、ニホンザルの一群が棲息していますが、市民の森まで下りてくることはありません。

(三) 植物

油山の植生は、大部分が人工林です。60年以上を経たアカマツ、杉、ひのきの針葉樹林が市民の森と油山観音境内にあり、すばらしい景観を呈しています。自然林では、油山の名前の由来であるヤブツバキが多く、中腹には、クスノキ、タブノキ、ヤマモモ、エノキなどの老樹が残存しています。自然林の高木では、タブノキ、クスノキ、コナラ、エノキ、ハリギリ、シロダモ、ヤマモモ、ホオノキ、コシアブラ、ウリハダカエデ、ミズキ、ヤブツバキ、シラカシなど。中高木にはゴンズイ、タラノキ、ヌルデ、ヤマウルシ、クサギ、アカメガシワ、ニワトコ、ネズミモチ、カナクギノキ、ヤマボウシ、ネジキ、クロキ、ソヨゴ、リンボク、エゴノキ、リョウブなど。低木では、ヤマハギ、シャシャンポ、ヒサカキ、イヌツゲ、コムラサキ、イヌザンショウ、ヤブコウジなどが自生して自然林を形成しています。シダ植物も豊富で、とくに水の森、こだまの森の溪流沿いの木陰には、ハコネシダ、ホラシノブ、イヌシダ、カ



油山の自然と歴史

ンワラビ、クリハランなどが自生し、山頂部には、ウラジロ、コシダが密生しています。また、サトザクラ、ツツジ、アメリカ楓、レンギョウなど開設時に花木園を中心に植栽された約120種が加わり樹種は豊富です。

2 歴史

油山の歴史は古く、山麓部の西油山、梅林、片江にかけては、多くの古墳群が発見され付近から弥生式土器も多数出土しています。

油山の名の由来は、今から約1,400年前聖武天皇のころ、西域からの渡来僧清賀上人が開山されたとき、灯油用にツバキの実から油をとったのが起源といわれています。清賀上人は、ツバキで千手観音像を刻み、東西油山に大小720余の伽藍を建立し、油山は豊前求菩提山と肩を並べるほどの一大法域として栄えました。鎌倉時代には、浄土宗の開祖法然上人の高弟であった鎮西上人が比叡山で修業後、建久2年、30歳の若さで油山学頭としておもむき、仏教の布教に勤めた時代もありました。しかし南北朝時代に肥前の少貳頼尚と肥後の菊池武光の両軍が油山で戦い、次いで戦国時代の天正7年、豊後の大友宗麟の部将、小田部紹叱が早良重留の山頂、荒平城にたてこもり、肥前の竜造寺隆信の軍と戦うなど、再度の戦いで720

余りの伽藍は失われてしまいました。元禄7年になって、やっと東油山の中腹に正覚寺が再建され、明治39年、同寺の御本尊聖観音像が、国の重要文化財となりました。また、戦国時代、早良一円を支配していた荒平城主小田部紹叱は竜造寺の部将、神代、執行、曲渕などの軍勢5千に包囲され、立花、大鶴の援軍むなしく天正7年秋落城しました。現在、城跡には、小田部紹叱、統房父子の墓碑があります。

西油山には、日蓮宗妙見山徳栄寺があります。同寺は昭和初期、当時の炭鉱王中島徳松の建立により開山、現在、境内を「田隈公園」として市民に開放し、サクラの名所となっています。

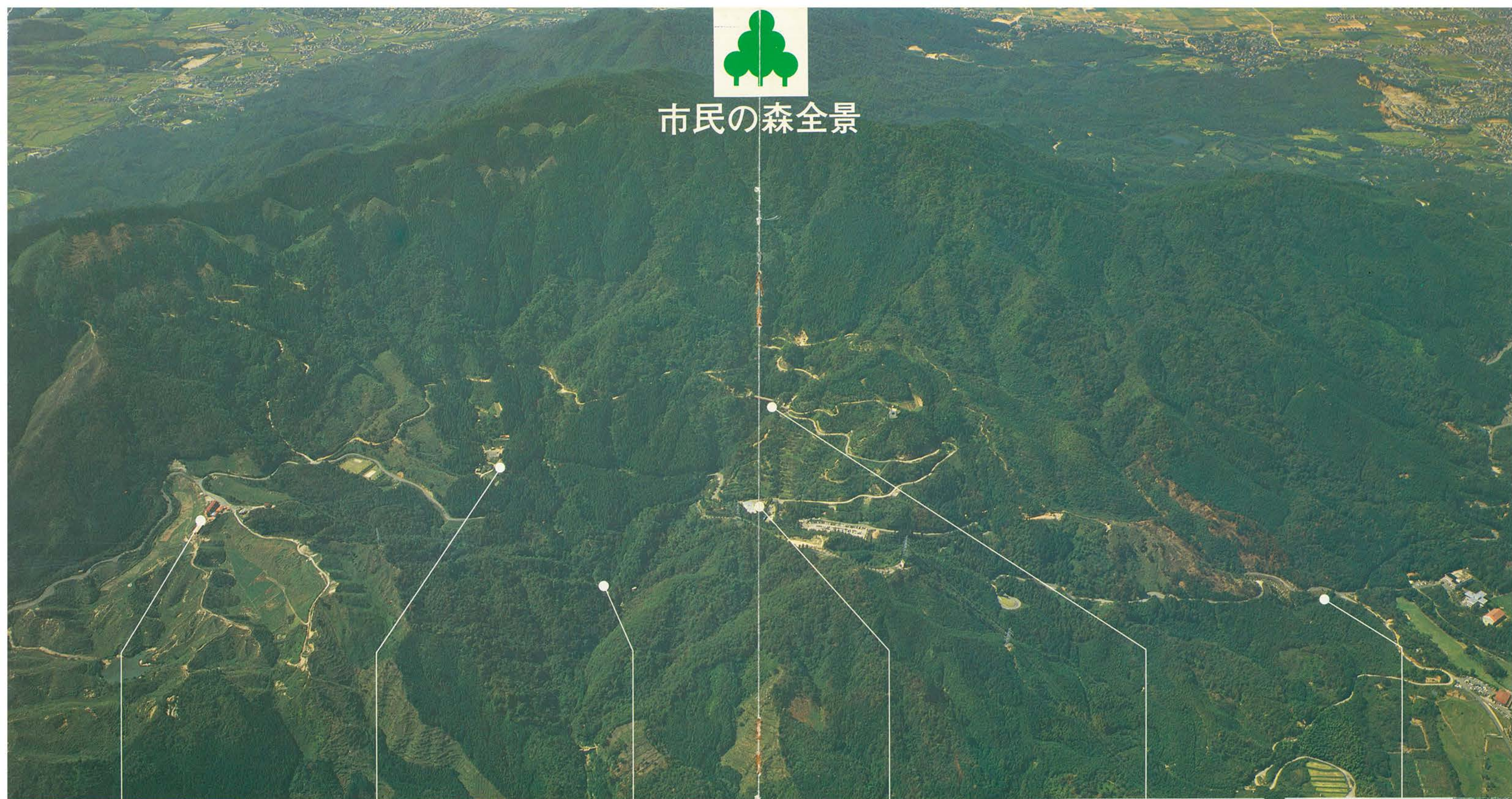
(資料・正覚寺縁起ほか)



●つり橋休憩所



市民の森全景



●油山牧場



●キャンプ場



●水の森



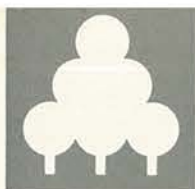
●油山青少年自然教室



●つり橋



●市民の森入口



市民の森の施設



●中央展望台

◇ 主な施設

(1) 夫婦石展望台

皇太子ご夫妻の行啓を記念して建設されたもの。宝満山から立花山にかけての連山を背景に市街地、博多湾、玄海国定公園が一望できます。(昭和44年建設)

(2) 中央展望台

高さ10メートル、横10メートルのサイコロ型の建物で、日章旗をデザインしたものです。夫婦石展望台と同じく、福岡の市街地、博多湾、玄海国定公園などが一望できます。(昭和44年建設)

(3) つり橋

野鳥の森の谷にかけられています。長さ52メートル、幅2メートル、溪谷からの高さは30メートルあり、市民の森のシンボルとして親しまれています。

(昭和44年建設・昭和53年改修)

(4) 油山青少年自然教室

油山付近に棲息する動植物の標本、岩石標本、パネルなどを展示する標本室のほか、講義・研修室、管理事務所、売店、休憩所などがあり、市民の森の管理センターとなっています。(昭和46年建設)

(5) キャンプ場

油山青少年自然教室から、南へ約700メートルの杉木立の中にあります。約2.3ヘクタールの敷地内にはロッジ、交歓広場、炊事場などの施設があり約200人が一度に利用出来ます。(昭和45年開設)

(6) 草スキー場

中央展望台横の13度から30度のスロープ、0.25ヘクタールに、57メートルと100メートルのコースを設けています。(昭和44年建設)

(7) 日時計・太陽電池時計

夫婦石展望台の広場には、西暦2000年に開封するタイムカプセルが入った精密日時計(昭和50年設置)が、また、油山青少年自然教室前の広場には、太陽のエネルギーで無限に動き続ける太陽電池時計(昭和52年設置)があり、時を知らせるとともに青少年の科学教材となっています。

(8) 世界の樹木園

市民の森入口約3.9ヘクタールをアジア区、アフリカ区、アメリカ区、オセアニア区、ヨーロッパ区、の5コーナーに分け、世界の代表的な樹木40種、約2,500本を植栽することになっています。(昭和55年に完成の予定)



市民の森の施設



●四季の園

(9) 水の森

市民の森の中を流れる3本の溪流が合流した白浪の滝は、落水の美しさを見せています。周辺は松林で囲まれ、休憩所、あづまや、野外テーブルなどを設置し、夏は涼をもとめる市民でにぎわっています。(昭和44年整備)

(10) こだまの森

つり橋の北西部10ヘクタールに植栽された60年生の杉林で、市民の森では一番古い人工植林地。ここは完成された森林の美しさを見せています。(昭和44年整備)

(11) アカマツ林

こだまの森から中央展望台にかけの帯に植栽されています。福岡市近郊で唯一の約60年生のアカマツ林です。(昭和44年整備)

(12) 花木園

約20ヘクタールの広さにあるサクラ、ウメ、モミジ、イチョウ、ツツジ、モチノキ、キョウチクトウ、レンギョウなど約2万本の花木園。開設時に市民の手で植樹されたものです。(昭和44年植樹)

(13) 野鳥の森

つり橋付近の7ヘクタールの自然林に巣箱が取り付けられ、多くの野鳥が見られます。(昭和44年整備)

(14) 楠の森

油山青少年自然教室の南東の斜面、1ヘクタールに、緑のシンボルとして親しまれている楠が200本植栽されています。(昭和50年植樹)

(15) 椿の森(レクリエーションの森)

キャンプ場と牧場の間に椿の森があり、ヤブツバキが多く自生しています。ここに、市民の記念樹として250本の椿が植栽されています。(昭和50年植樹)

(16) ホルトの森

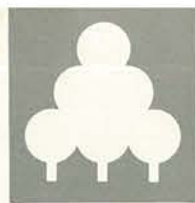
世界の樹木園の南側1.5ヘクタールにホルトノキ2,000本が植栽されています。(昭和51年植樹)

(17) 梅園

油山青少年自然教室の北側、桜河内林道沿いの2.1ヘクタールに市民の森協会設立5周年記念事業として、市民の手で梅200本が植栽されたものです。(昭和51年植樹)

(18) 四季の園

市民の森入口付近の溪流一帯0.3ヘクタールに15種、約900本の樹木が植栽され、四季おりおりの花や紅葉が楽しめます。(昭和52年植樹)



市民の森の施設



●油山牧場

(19) 運動広場

キャンプ場と牧場の間にある0.3ヘクタールの芝生の広場で、バレーボール、バドミントンなどができます。

(20) 油山牧場

市民の森の最南端にある32.6ヘクタールの育成牧場です。ここでは、市内酪農家から預った乳牛の子牛約80頭が立派な母牛となるよう放牧されています。さらにこの牧場は、レクリエーションや、畜産の教材などにも利用されています。(昭和48年開設)

◆油山16景とハイキングコース

油山は名所、古蹟を探勝するには、格好の山で、油山16景として知られ、史蹟や景勝地が多くハイキングコースも整備されています。

油山16景

六地藏、坊住跡、鎮西国師学寮跡、新羅式石門、

光ガ滝、油谷、浩然台、妙見岩、国見岩、姫ガ淵、夫婦石、山笠岩、白浪ノ滝、天狗岩、道德坊跡、夫婦滝。

現在のハイキングコースは油山16景をおりこみ、コースを設定しています。

(1) 油山バス停—青年の家—自然教室—つり橋—キャンプ場—牧場—萩ノ原峠—西山田—桧原バス停

(2) 油山バス停—油山観音—片江展望台—妙見鼻—妙見岩—山頂—つり橋—自然教室—夫婦石浄水場—駄ガ原バス停

(3) 妙見口バス停—徳栄寺—妙見鼻—妙見岩—山頂—こだまの森—中央展望台—世界の樹木園—油山観音—油山バス停

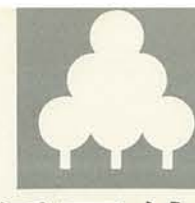
(4) 南片江バス停—文学碑公園—片江展望台—油山観音—世界の樹木園—自然教室—水の森—西山田—桧原バス停

(1コースは約4～5時間程度の距離となります。)

油山市民の森を中心とした公認オリエンテーリングコースが2コースあり、春秋には大会を実施しています。

◆文学碑公園

南片江バス停から南へ約1キロメートル、静かな森の中に文学碑公園があります。ここは、吉川熊雄氏(元福岡日日新聞社主)が生前20年間にわたり建設したものです。静寂な敷地内に自然石を生かした百基に及ぶ文学碑が設置され、文学愛好者やハイカーに思索の森として親しまれています。



関係団体名簿

市民の森運動本部役員名簿 (自昭和42年 至昭和45年)

職名	氏名	公職名
本部長	森 俊雄	明るい町づくり協議会長
幹事長	貝島 義之	明るい町づくり協議会長 非常任副会長
副幹事長	大庭 貫一	福岡商工会議所員
副幹事長	甲木 豊吉	福岡市自治会連合会長
事務局長	大和 静男	明るい町づくり協議会事務理事
幹事	大神健太郎	福岡市公民館長 会長
	楠原 花子	福岡市校区婦人会連絡協議会長
	久野 泰成	福岡商工会議所員
	池見 茂隆	福岡商工会議所理事
	城戸 善雄	福岡市森林組合 会長
	荒谷 年野	明るい町づくり協議会事務総
	北村 兼而	福岡衛生連合会長
	中村 善一	緑化設計者
	池田和次郎	運動本部 会計
	福井 義敬	明るい町づくり協議会事務常任理事
委員	待鳥喜久太	福岡市文化会議 理事
	青木 秀	福岡市文化会議 理事
	青木壮三郎	明るい町づくり協議会校区理事代表
	井上 悟	明るい町づくり協議会校区理事代表
	大神善九郎	明るい町づくり協議会校区理事代表
	大里 華譽	明るい町づくり協議会校区理事代表
	安松 増雄	明るい町づくり協議会校区理事代表
	谷 義廉	明るい町づくり協議会校区理事代表
	田中百合松	明るい町づくり協議会校区理事代表
	福永 克己	明るい町づくり協議会校区理事代表

市民の森協会役員名簿 (昭和53年現在)

職名	氏名	公職名
名誉会長	進藤 一馬	福岡市長
顧問	久保田秀己	福岡市議会 議長
顧問	宮副 丈助	福岡市議会 副議長
会長	蟻川五二郎	福岡商工会議所 会頭
副会長	木本 元敬	福岡市観光協会 会長
専務理事	沢田 定治	(常勤)
理事	城戸 善雄	福岡市森林組合 理事
	岩崎 健児	福岡市観光協会 専務理事
	戸田 成一	福岡市教育長
	西津 茂美	福岡市経済局長
	八尋 栄	福岡市農林水産局長
監事	中尾莊兵衛	福岡市公民館長 会長
	原 春寿	福岡商工会議所 理事
企画委員	中島 末光	福岡営林署 署長
	田中 軍司	福岡市議会 議員
	大神 研裕	福岡市議会 議員
	浦田 安喜	南区町世話人連絡協議会長
	久保山秀雄	西区町世話人連絡協議会長
	大庭 貫一	福岡商工会議所員
	大和 静男	明るい町づくり協議会事務専務理事
	松尾 ミヨ	地域婦人会連絡協議会長
	久野 泰成	福岡商工会議所 副頭
	待鳥喜久太	福岡文化連盟 理事
	荒谷 年野	明るい町づくり協議会事務総
	牟田 浄一	福岡市衛生連合会長
	大神ミヨ子	長尾地区婦人会 会長
	城戸仁八郎	東油山町 町世話人
	鳥井 義祐	桧原町 町世話人
	三浦文一郎	柏原町 町世話人
	神岡 道雄	日本野鳥の会 福岡支部 幹事



年表

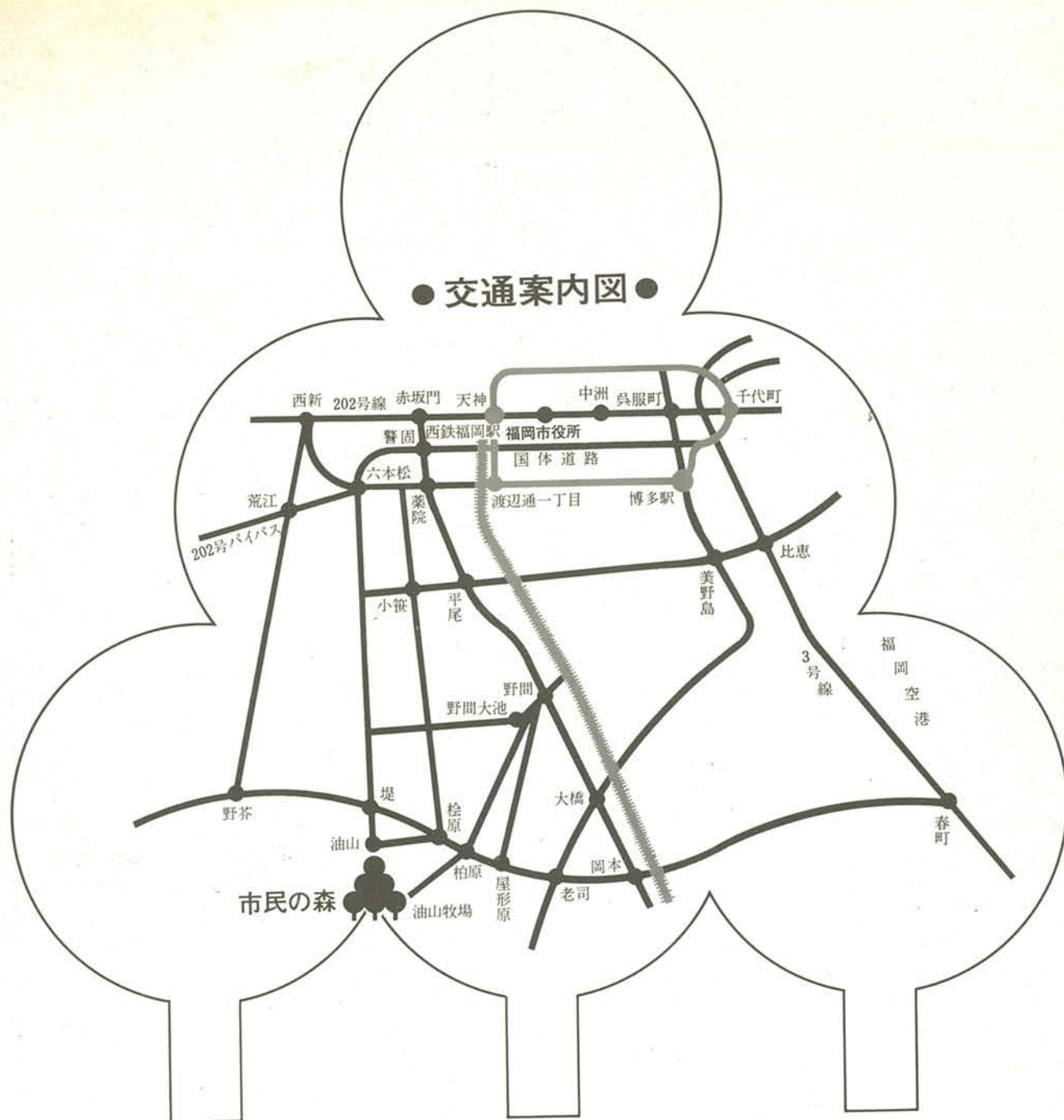
年	月	市民の森のあゆみ	国内外の主なできごと
40 (1965)	3	黒の原林道完成、工期36年～39年、延長3,192メートル、工費 3,020万円。	朝永振一郎氏ノーベル賞受賞 (40年10月)
42 (1967)	1	阿部市長、年頭記者会見で、長尾山市有林72ヘクタールを市民のレクリエーションの場とする「油山総合開発」の基本構想を発表。	
	3	東油山林道完成。延長642メートル。	
	6	明治百年記念行事世話人会発足。「市民の森造成」を記念事業として検討。	
	8	福岡明治百年記念委員会を、市、市議会、教育委員会、その他目的に賛同する民間諸団体と学識経験者で組織し、阿部市長を会長に選出。記念事業は油山に「市民の森」を造成することに決定した。また、全市民の記念事業とするため「市民の森運動本部」の設置を決定。	
	10	「市民の森運動本部」は、民間諸団体により構成し、本部長・森俊雄氏、幹事長・貝島義之氏を選出し、スタート。	ソ連「金星4号」軟着陸に成功 (42年10月)
	11	市民の森運動本部発足記念植樹祭を開催。営林局長、県知事、日本桜の会会長、桜の女王、その他多数の来賓を迎え 500人を超える市民参加があった。	
	12	世界の樹木園完成。福岡南ロータリークラブから創立10周年を記念して樹木93種1,100本寄贈される。	
43 (1968)	4	皇太子殿下ご夫妻、夫婦石展望台にご来臨。 春の市民植樹祭開催。市民約1,500人が参加。 ミス市民の森発表。黒田真理子さんらミス市民の森、椿の精、つつじの精、藤の精、桜の精を選出する。 市民の森シンボルマーク発表。(当時の夕刊フクニチ新聞社の協力で2,000点の応募作より選定)	小笠原諸島返還 (43年 6月)
	7	高松宮ご夫妻ご来訪。楠を記念植樹される。	
	8	オークランド市のYMCA一行、ホルトノキを記念植樹。	川端康成氏ノーベル賞受賞 (43年10月)
	12	油山市民の森基本計画書作成。基本理念を「自然のままの自然」「人間性の回復」「林業の啓蒙普及」「徒歩利用の原則」とする。	
44 (1969)	3	芝生と岩の広場(草スキー場)、赤松展望台、こだまの森、野鳥の森、水の森、夫婦石展望台、キャンプ場完成。	
	4	「油山市民の森条例」制定。条例に基づき、「市民の森管理事務所」を設置し、市民の森の管理にあたる。 春の市民植樹祭開催。夫婦石展望台広場に市民約8,000人が参加、展望台の除幕式、花木園での記念植樹を行う。	アポロ11号、月面着陸。人類最初の月面踏査。(44年 7月)
	8	つり橋完成。南区竹内光行氏ご夫妻が運動本部を通じて寄贈。	
	10	中央展望台完成。	
	12	市民の森献納式並びに「市民の森運動本部」解散式。2カ年にわたる市民の森建設の市民運動を展開し、約5,700万円余の寄付を募り	人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功 (45年 2月)



年表

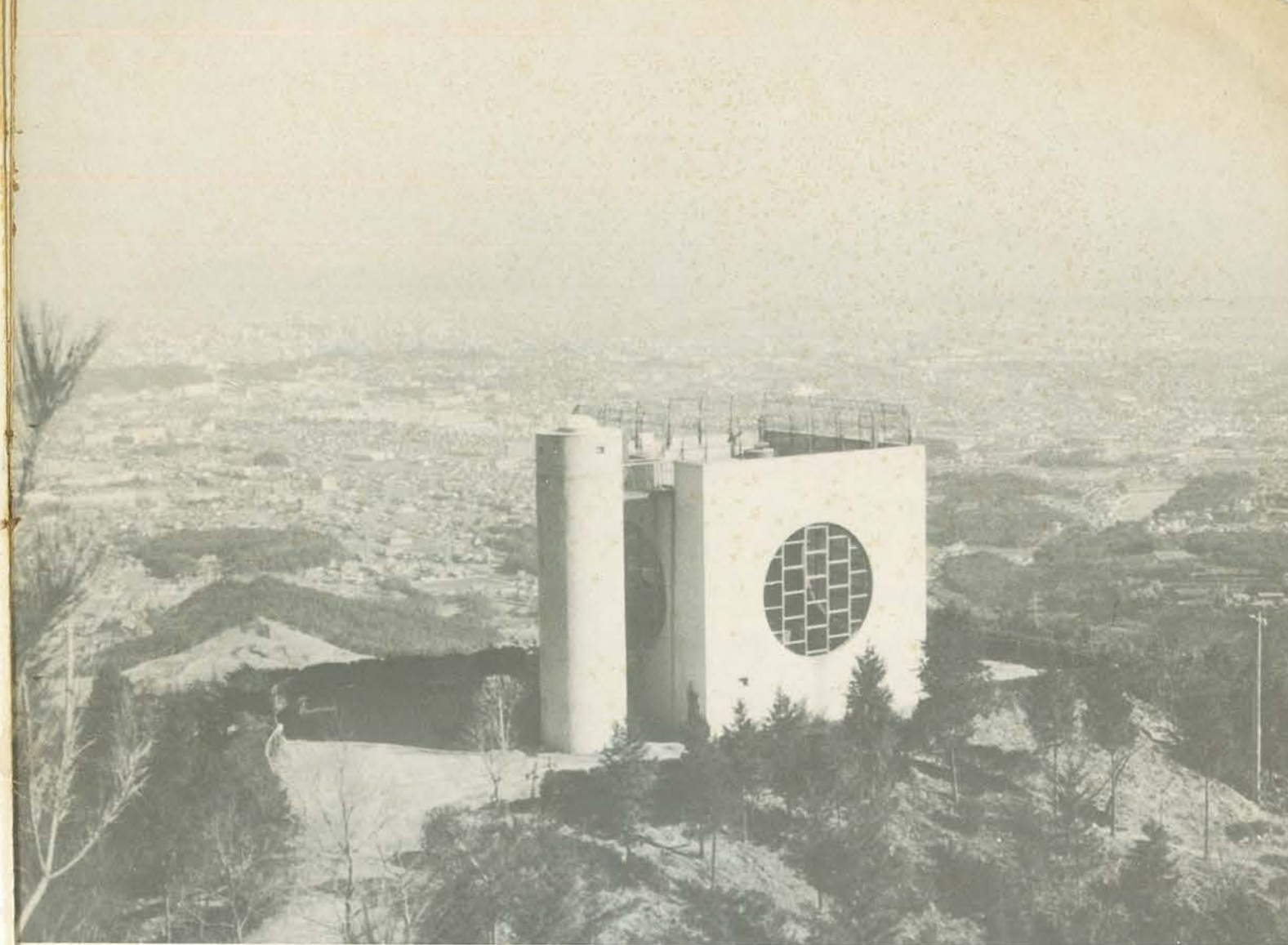
年	月	市民の森のあゆみ	国内外の主なできごと
45 (1970)	3	目標の全施設が完成。 桜河内林道完成。工期42年～44年、延長1,438メートル、工費1,765万円。	万国博開幕 (45年 3月)
	4	常陸宮ご夫妻ご来訪。タイサンボクを記念植樹される。	
	7	銀杏休憩所完成。博多織元卸商業組合の寄贈。	
	10	キャンプ場一般開放する。	
	10	「市民の森協会」発足。会長に赤羽善治氏(商工会議所会頭)副会長に木本元敬氏(観光協会会長)を選出。	
46 (1971)	3	油山青少年自然教室完成。福岡市観光協会が建設。鉄筋コンクリート2階建、延面積621平方メートル。	
	9	市民の森を中心にした油山オリエンテーリング公認コース開設。	中国国連加盟 (46年11月)
47 (1972)	11	福岡市政令指定都市発足記念植樹祭。県、市、市議会、市民の森協会関係者、前市長ほか多数の有志が、夫婦石展望台広場に楠を、駐車場一帯にヒマラヤシーダーを記念植樹。	札幌オリンピック開催 (47年2月) 沖縄祖国復帰 (47年 5月)
48 (1973)	3	福岡市政令指定都市発足記念として、西区老人クラブ連合会がナノミ、南天など実のなる木を記念植樹。	
	4	油山牧場開場式。九州農政局、福岡営林署、県、市、市議会、酪農団体関係者多数が出席。(工期45年～48年。総面積32.6ヘクタール、工費17,200万円)	前市長・阿部源蔵氏初の名誉市民となる。 (48年 4月)
	12	桜河内林道と牧場を結ぶ散策道完成。工期45年～48年、延長1,300メートル。	
50 (1975)	3	楠の森造成、テレビ西日本から楠200本寄贈。	新幹線博多乗り入れ (50年 3月)
	4	椿の森造成、市民の森協会事業として、椿250本の市民記念植樹。	
	5	市民の森協会第2代会長に蟻川五二郎氏(商工会議所会頭)就任。	
	6	日時計設置。福岡県貴金属眼鏡商業協同組合から寄贈。	沖縄海洋博開催 (50年10月)
51 (1976)	3	梅園造成。市民の森協会5周年記念事業として、梅210本の市民記念植樹。	
	6	ホルトの森造成。福岡ライオンズクラブから創立20周年記念事業として、ホルトノキ2,000本寄贈。	
52 (1977)	4	四季の園造成。国際ソロブチミスト福岡から花木など900本寄贈。	
	10	太陽電池時計設置。九州郵政局の手によるもの。	
53 (1978)	5	新しいつり橋が開通。市、市議会、市民の森協会関係者、前つり橋寄贈者、市民多数が参加しテープカット。 新オリエンテーリング公認コース開設。	新東京国際空港開港 (53年 5月)
	9	市民の森協会が、市民の森10周年記念事業として記念植樹募金活動を開始。	日中平和友好条約締結 (53年 8月)
	11	市民の森10周年記念式典並びに記念植樹祭を開催、10周年記念事業として世界の樹木園造成。	

● 交通案内図 ●



◇ 市民の森の概要

- ◇ 名 称 福岡市油山市民の森。
- ◇ 所在地 〒814 福岡市南区大字桧原字夫婦石855～4ほか。
- ◇ 面 積 113.1ヘクタール(油山牧場32.6ヘクタールを含む。)
- ◇ 管 理 福岡市農林水産局農林部市民の森管理事務所(電話 871-6969)
- ◇ 関係団体
 - 福岡市市民の森協会
 - (市民の森運営協力)
 - 電話 801-1460)
 - 油山乳牛育成組合
 - (油山牧場における乳牛育成事業)
 - 電話 861-6310)
- ◇ 交 通 博多駅、天神より西鉄バス13番系統、油山下車、徒歩1時間。



福岡市民のことは

福岡市は九州の主都、あすへむかって、いきいきと発展しています。

筑紫野の緑と玄海の白波にかこまれ、ここには、輝かしい歴史と伝統が築かれてきました。わたしたち福岡市民は、誇りと責任をもって、次のことをさだめます。

1. 自然を生かし、あたたかい心にみちたまちをつくりましょう。
1. 教育をおもんじ、平和を愛し、清新な文化のまちをつくりましょう。
1. 生産をたかめ、くらしを豊かにし、明るいまちをつくりましょう。
1. 力をあわせ、清潔で公害のないまちをつくりましょう。
1. 広い視野をもち、若さにあふれる市民のまちをつくりましょう。



市民の森シンボルマーク